

国土交通省総合政策局  
情報政策課交通統計室  
平成26年1月8日(水)公表

# トラック輸送情報

平成25年10月分

平成25年11月分は平成26年2月上旬公表予定

\*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通統計室

電話 03-5253-8111      F A X   03-5253-1567

担当 桑原 内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

## トラック輸送情報（平成25年10月分）

平成26年1月8日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：桑原 内線28723

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,776,999トンで、前月と比べ総輸送量が約583千トン増加したため、前月比111.2%（季節調整済み100.1%）となり、前年同月との比較では、約279千トン増加したため、前年同月比105.1%の実績であった。

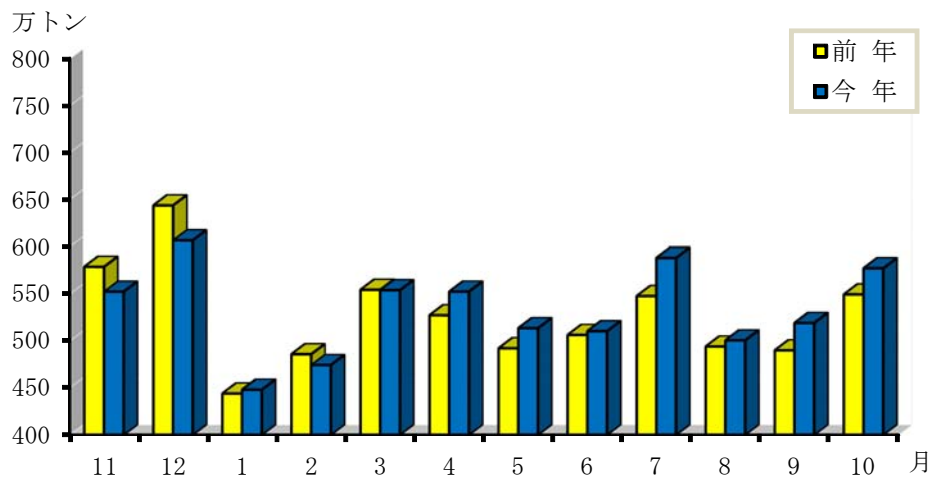
なお、平均稼働日数は25.0日で、前月と比べ2.5日増加し、前年同月との比較では、0.1日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、231,080トンで、前月と比べ216トン増加したため、前月比100.1%となり、前年同月との比較では、約12千トン増加したため、前年同月比105.5%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

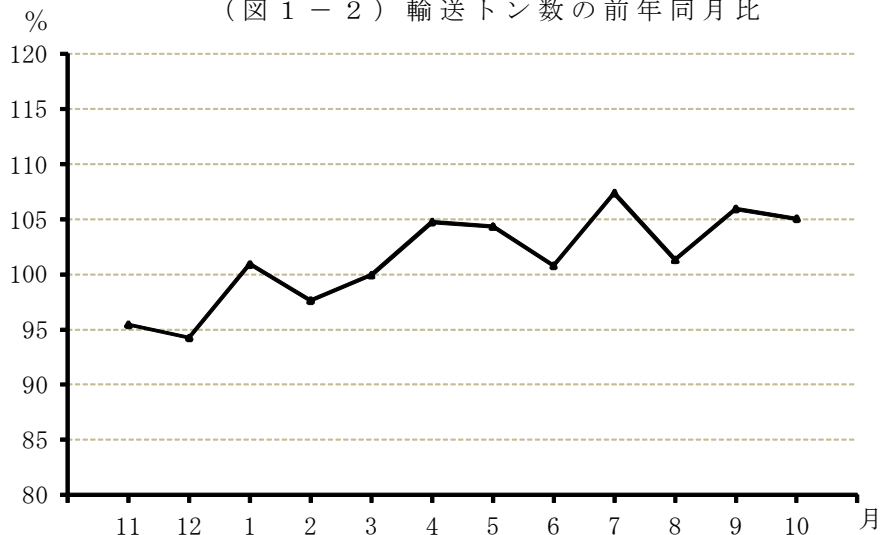
注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

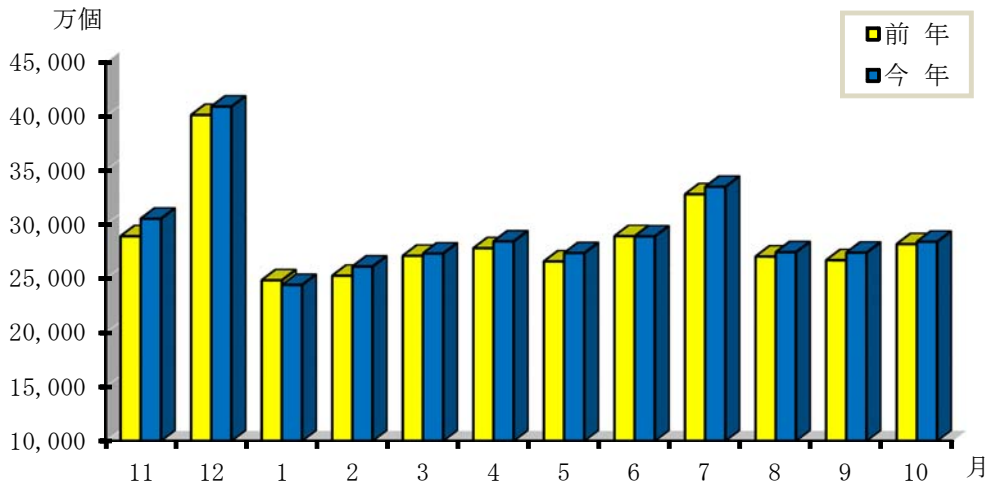


(2) 宅配便の概況

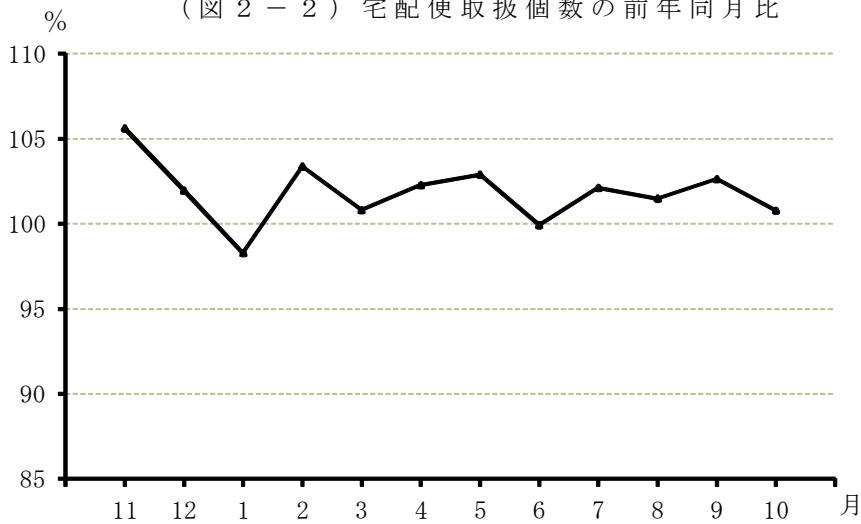
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 284,217 千個で、前月と比べ 約 10,099 千個増加したため、前月比 103.7% (季節調整済み 100.3%) となり、前年同月との比較では、約 2,170 千個増加したため、前年同月比 100.8% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 25 社(24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、全ての品目において、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。その増加要因としては、工場・生産地からの貨物増であった。また、倉庫から出る貨物増が「機械」、「食料工業品」で、季節的需要増が「日用品」で見られた。地域については、関東地方から中国の範囲で増加したと回答する事業者が多かった。

前年同月と比べると、「金属製品」、「日用品」で輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。「金属製品」の主な増加要因は工場・生産地からの貨物増で、主な増加地域は「関東」、「北陸信越」、「大阪」であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数						主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減	減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	3	11	1	1	果物		4
	金属製品		6	13	2			関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方	4
	機 械		10	9	1		電気機械、機械部品	東京、関東、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	化学工業品		9	13			合成樹脂	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	繊維工業品		6	15	1			神奈川、関東、中部地方	4
	食料工業品		6	13	1		製造食品	神奈川、関東、北陸信越、愛知、近畿	4, 7
	日 用 品		11	10	1		その他の日用品	関東地方	4, 8
	そ の 他		7	10	3	1			
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品			14	3	1			
	金属製品	1	5	14	1		その他の金属製品	関東、北陸信越、大阪	4
	機 械		4	13	3		機械部品	関東、大阪	4
	化学工業品	1	1	18	2				
	繊維工業品		2	17	3				
	食料工業品		3	16	1				
	日 用 品	1	5	14	2				
	そ の 他	1	3	13	4				

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都府県を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者774社/調査対象事業者数1,042社)の輸送量は、前月比 109.0%、前年同月比 102.9%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	102.9 %	100.9 %	104.1 %	100.4 %	105.6 %	104.9 %	99.7 %	105.8 %	103.7 %	104.2 %	99.3 %	
前 月 比	109.0 %	115.7 %	109.3 %	100.0 %	109.3 %	106.9 %	103.4 %	107.1 %	105.1 %	107.9 %	108.8 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比115.7%、対前年同月比100.9%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の農産品」、「木材」、「鉄鋼」、「その他の石油製品」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「機械」、「セメント」が、工場・生産地からの需要増により「野菜・果物」、「水産品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、倉庫への入出庫減により「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比109.3%、対前年同月比104.1%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」、「野菜・果物」、「水産品」が、工場・生産地からの貨物増により「紙・パルプ」が、また、「砂利・砂・石材」、「食料工業品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減並びに景気の影響による貨物減により「揮発油」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比で100.0%、対前年同月比100.4%であった。品目別では建設関連の需要増により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比109.3%、対前年同月比105.6%であった。品目別では、建設関連の需要増により「セメント」が、季節的需要増により「穀物」、「野菜・果実」、「その他の農産品」、「機械」、「その他の石油製品」が、また、「鉄鋼」、「金属製品」、「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比106.9%、対前年同月比104.9%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比103.4%、対前年同月比99.7%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「紙・パルプ」が、また、「化学薬品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、夏季繁忙期の時期が過ぎたことにより飲料等の「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比107.1%、対前年同月比105.8%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物増により「鉄鋼」、「機械」が、また、「工業用非金属鉱物」、「日用品」、「取り合せ品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「穀物」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比105.1%、対前年同月比103.7%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」、「野菜・果物」、「その他の石油製品」が、工場・生産地からの貨物増により「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「その他のくずもの」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比107.9%、対前年同月比104.2%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、また、「木材」、「鉄鋼」、「金属製品」についても輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比108.8%、対前年同月比99.3%であった。品目別では、商社・問屋からの貨物増により「鉄鋼」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減等により「紙・パルプ」、「金属くず」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道	道	道	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増		8		2				4	2		16
	減				2			2				4
2. 野菜・果物	増	4	3		1			1	7	9		25
	減	1	1	1				1		2		6
3. その他の農産品	増	12			1							13
	減											
4. 畜産品	増		1							1		2
	減	1								1		2
5. 水産品	増	3	3		1			1				8
	減	1	1		1	1			1	1		6
6. 木材	増	3	2		1			2		3	1	12
	減							1			1	2
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1						1				2
	減											
9. 金属鉱物	増											
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	5	3			1		5	1	6		21
	減	3							2	2		7
11. 工業用非金属鉱物	増	1	2					3	1	1	1	9
	減	1							1	1		3
12. 鉄鋼	増	2	1	1	3	1		5	1	3	1	18
	減				1	1			1			3
13. 非鉄金属	増		1	1			1	1				4
	減				1							1
14. 金属製品	増	1	2		2	1	2	2	1	4		15
	減		2				1			2		5
15. 機械	増	2			2	2	2	3	3	6		20
	減		1	1	1	1	1	1	2	5		13
16. セメント	増	5	1		3	2		6	2	4		23
	減					1			1			2
17. その他の窯業品	増	1			3	1		1	1			7
	減							1				1

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増			1	1			1		2		5
	減		2		1							3
19.その他の石油製品	増	4	1		1			2	2	1		11
	減	1										1
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21.化 学 薬 品	増	1					2	1	1			5
	減											
22.化 学 肥 料	増							1	1	1		3
	減	1			1							2
23.その他の化学工業品	増	1						1				2
	減			1								1
24.紙 ・ パ ル プ	増	1	4		1		2	1	3	3		15
	減		1		1					1	1	4
25.織 維 工 業 品	増		2									2
	減								1			1
26.食 料 工 業 品	増	2	5		1			1	1	6		16
	減	3	2		1	1	2	3	1	7	1	21
27.日 用 品	増				2		2	3		3	1	11
	減	1	1	1			2	1		1		7
28.その他の製造工業品	増	1	1			3		1	1	1		8
	減			1		1		1	1	1		5
29.金 属 く ず	増									1		1
	減										1	1
30.その他のくずもの	増											
	減							1	2			3
31.動植物性飼・肥料	増		3	1						1		5
	減	4										4
32.廃 棄 物	増		2		1			1				4
	減		1		1			2	1	1		6
33.輸 送 用 容 器	増									1		1
	減								1	1		2
34.取 り 合 せ 品	増		1					4		3		8
	減										1	1
35.そ の 他	増	1	1	2	6	1	3	2		4	1	21
	減		1	1				2	1	1	1	7